

医学部保健学科の報告

新潟大学医学部保健学科 木村 元政

医学部保健学科の木村と申します。保健学科はこの中では大学学習法を一番遅れて導入したといいますが、今年の1期1回目がやっと終わったばかりです。また保健学科の中には3専攻あるのですが、その専攻ごとに自由に行っているのも、やり方も異なっているということになります。

その3専攻の代表の人もいらっしゃるのですが、時間の都合で今日出れないので、私個人のまとめないし感想がほとんどですが、そういうものとしてお聞き願いたいと思います。

私は保健学科の中でも放射線技術科学専攻に所属しております。

次にも出てきますが、全体のカリキュラムの作成上の考え方 (Fig.1) として、教養科目、外国語科目、あと専門科目というようなかたちでガイドラインがあります。そのガイドラインを作っていますが、平成14年の9月に大学基準協会が出した保健学系教育に関する基準・(Fig.2) ということですが、これは看護系を除いております。

今日の話の大学学習法は、この教育課程のところに入りますが、その中でも導入教育というところの範疇に入るものとしてとらえております。

導入教育 (Fig.3) ですが、先ほどからいろいろな先生から指摘がありましたように、入学生が多様化していること、学習指導要領が変わりまして、基本的な科目で、未履修科目を持っている学生が入ってくるということです。今年度までは全学科の中で基本的な理系の基礎科目を、必修ということではありませんので、ガイダンスで必ず1科目以上履修するように指導をしています。

この成績をチェックしておりますけれども、ほとんどの学生は2科目以上履修して、この指導は守っているようです。

来年度からは、自然科学系の共通専門基礎科目となっていると思うのですが、当初放射線技術科学専攻としては従来から言われている数学、物理、化学、生物ということで、8単位以上ということを考えていたのですが、他の専攻との足並みをそろえるという意味で、保健学科全体としては6単位以上を必修にする予定です。これは最低限ですので、ガイダンスでは8単位以上というような指導に放射線技術専攻ではなるの

だろうと思います。

保健学系を学習する上での動機づけとしては、今年度からは大学学習法の中で放射線技術科学分野に関する理解を深めるというテーマで行っております。

シラバス (Fig.4) の中身ですけれども、各教員の先生方に、これも内容は自由ということで専門分野での教育内容の説明、あと研究内容の紹介ということで、ほぼ全員の教員がオムニバスで講義をするというかたちで進めております。他の先生方の講義はわかりませんので、私の担当の分だけどういことをしているか紹介をします。

これから学生の皆さんとどういのかたちで接していくかということで、主な担当講義に関して、1年から4年まで紹介しています。その中でもキーとなる講義、必修科目に関して内容を少し説明します。

学生の皆さんは初めて見るような画像になりますので、あまり細かいことではなくて、血管に造影剤を入れるとこうい写真が出ますというようなこととか、今1番新しい診断装置として、磁気を用いた診断画像はこういうものかというようなかたちで、簡単に紹介します。

講義の内容だけでは少しつりませんので、先生によっては自分が行っているような研究に関して説明します。私は4年生になって卒業研究ではどういことを行うかというようなことを少し説明します。

放射線技術専攻と検査技術専攻の学生さんは、一応医療職を目指してきているのですが、看護専攻に比べますと、進路再考で休学する学生が時々出てくるというように、入学時の希望が第1希望ではなかった人とか、それほど職業に関して十分な知識を持ってこなかったという人がいますので、動機づけを目的として大学学習法をしています。

ただ看護専攻は、他の学部と同じような大学学習法の仕方をしています。

今年の講義の後にアンケート (Fig.5) を和田先生が行ってくれたものです。

放射線技術科学でこれから勉強することの内容を知ることができてよかったということですが、どうも研究内容の話に力が入り過ぎた先生もいたみたいで、そんなに難しいことを言われてもよくわからないという苦情もありました。

スタディスキルのスキルの方の取り組みは今年は全然していません。

今後の課題ですが、学習に必要なスキルを身につけることに対する取り組みを、どういふふうに組み合わせていくかということです。また学生から実際の医療

現場を見たいという要望があります。

旭町キャンパスと五十嵐キャンパスというふうに、離れたところで授業をしているという問題もあり、これはまた別途企画しなければならないのかと今のところ考えております。以上です。

資料

医学部・保健学科・放射線技術科学専攻における

1. 初年次教育のとらえ方と大学学習法について

放射線技術科学カリキュラム作成上の基本的な考え方

1. 教養科目について
 - ・医療人として豊かな人間性と高い倫理観と強い責任感を培うために広範囲な学問領域の科目を開講する。
 - ・専門科目の導入として必要な基礎科目については必修とする。
2. 外国語科目について
 - ・英語を必修科目として、放射線技術科学に關係する専門書購読や会話などの生きた外国語教育が望ましい。
3. 専門基礎科目および専門科目について
 - ・国家資格の取得について必要な科目は必修科目とする。
 - ・一連の科目については、講義、演習、実験・実習、臨地実習の順に進行する。
4. 臨地実習を中心とした実習教育の重視
5. 卒業研究

Fig1.

保健学系教育に関する基準(平成14年9月財団法人大学基準協会)

項目一覧

- I. 教育研究に関する条件等
 1. 理念・目的ならびに教育体系等
 2. 学生の入学選抜・定員管理等
 3. 教育課程
 4. 教育方針とファカルティ・デベロップメント
 5. 教員組織と教員の責務・資格、教員の教育条件の整備
 6. 教育環境の整備
- II. 学生への教育指導上ならびに学生生活への配慮
- III. 管理運営・財政
- IV. 生涯学習
- V. 自己点検・評価および第三者評価

3. 教育課程の内容

- (1) 保健学系教育の目標
- (2) 教育課程の編成
- (3) 授業科目等と単位
- (4) 導入教育
- (5) 外国語教育および情報処理教育
- (6) 臨地実習およびインターンシップ
- (7) 卒業研究等
- (8) 他大学との単位互換等
- (9) 中間評価
- (10) 卒業評価
- (11) 各保健学系分野のカリキュラム例

Fig2.

(4) 導入教育における対応について

- 1) 入学生の多様化および新学習指導要領の導入に伴って、保健学系専門分野を学習する上で必要とされる高等学校終了レベルの知識が不十分な者に対しては、補講等を開講する。
 - 全科目のうち数学・物理・化学・生物の理系基礎科目を、それぞれ1科目以上履修するようガイダンスで指導している。
 - 平成17年度からは、自然科学系専門基礎科目として6単位以上を必須とする。
- 2) 保健学系を学習する上での動機付けとして、適切なテーマを選び、それに関する調査報告や討論を主体とするような科目を開講する。
 - 「大学学習法」のなかで、放射線技術科学分野に対する理解を深める。

Fig3.

2. 大学学習法の実施状況(平成16年度)について

スタディスキルズ(放射)

【達成目標】
医学部保健学科放射線技術科学専攻の導入生として、大学の学生生活により効果的に適応していくため、大学の学習技術や取り組み方を身につける。さらに、専門教育科目の内容紹介などを受けることにより、積極的な学習の必要性を理解する。

【授業計画】

1. ガイダンス
2. 専門分野の教育内容および研究内容の紹介: 大久保研究室
3. 専門分野の教育内容および研究内容の紹介: 川瀬研究室
4. 専門分野の教育内容および研究内容の紹介: 高橋・高橋研究室
5. 専門分野の教育内容および研究内容の紹介: 坂本・小林(公)研究室
6. 専門分野の教育内容および研究内容の紹介: 和田研究室
7. 専門分野の教育内容および研究内容の紹介: 齋藤研究室
8. 専門分野の教育内容および研究内容の紹介: 佐井・李研究室
9. 専門分野の教育内容および研究内容の紹介: 日向研究室
10. 専門分野の教育内容および研究内容の紹介: 根谷研究室
11. 専門分野の教育内容および研究内容の紹介: 木村・尾崎研究室
12. 専門分野の教育内容および研究内容の紹介: 堀越研究室
13. 専門分野の教育内容および研究内容の紹介: 栢森・山崎研究室
14. レポート作成

Fig4.

3. 大学学習法の今後の課題について

学生による評価(アンケート調査:平成16年7月末 和田先生実施)

全体としては好意的な意見が多かった。
 ・どんな人がいるのか少しわかってよかった。
 ・実際の診療放射線技師の仕事を知ることができ、以前より知識が増加した。
 ・この講義を通して、放射線技師の仕事について入学時よりはっきりした。また

2年次以降に行われる専門科目などについて簡単に説明してもらえたので、教養科目の大切さも感じ、これからの大学での学習に対する心構えができ、先生方がどういふ研究をしているのかわかり興味があった。
 ・改めて自分が入学した学科でどのような勉強をするのかを確認するいい機会になった。

【学生の要望事項】
 ・知識の少ない一年生にももう少し判りやすいように話をしたい。
 ・専門的な内容の語も多くなり、理解ができなところもありました。
 ・今の段階では、研究内容を理解することは困難でした。
 ・内容を聞いても専門的な言葉が多く、なかなか理解するのが難しかった。
 ・実際に扱う機器や医療現場を見たかった。
 ・実際に研究室の見学を試みたかった。

Fig5.

これから(次年度へ向けて)の課題

- 1) 「学習に必要な技術を身につける」ことに対する取り組みをどうするか。
- 2) 学生からの要望にも見られた、実際の病院施設見学の可能性について検討する。
 - 1年次1期月曜日は、旭町キャンパスにて大学学習法+専門基礎科目を履修してもらう。
 - 別途、夏休期中に行う。
 - など

Fig6.